



祝辞

地域の発展に貢献を 技術力の蓄積で発展に期待

本日ここに、沖縄県設備設計事務所協会並びに社団法人建築設備技術者協会九州支部沖縄会の平成13年度通常総会が開催され、盛会のうちに滞りなく終了されましたことを心よりお祝い申し上げます。また、この懇親会にお招きいただき、日頃から建築設備技術者集団としてご活躍をされている皆様方に、ご挨拶を申し上げる機会を得ましたことを感謝申し上げます。

さて、最近『構造改革』という言葉をよく耳にしますが、公共建築でも『今ある既存のストックをいかに有効に活用していくか』、あるいは『いかに使いまわしがきき、長期にわたって低コストで運用できる施設を整備していくか』に、より重点が置かれるようになってきております。

一方、個々の建築物に目を向けますと、IT化、環境負荷低減、高水準の執務環境確保等、より複雑で高い性能が求められているようになってきております。施設の整備・運用に対して厳しいコストの制約がある中で、高度な内容を実現していかねばなりません。

特に、建築物の中でも比較的寿命の短い建築設備に対しては、施設の建設・保全・修繕・更新の各段階でより低い投資でより高い効果をあげるべく、ここ沖縄の気候風土を活かしたかたちでの工夫・努力が、今後一層求められてくると考えております。

沖縄総合事務局開発建設部は、昭和47年の設置以来各省庁の一般庁舎をはじめ地方合同、港湾合同庁舎、研究施設等、多岐にわたる施設整備を行ってまいりました。現在、沖縄の官庁施設の延べ床面積は約25万㎡というストックとなつております。

これらの施設に対し、公共サービスを提供する場にふさわしい機能・環境を、安定して確保していくため、計画的に建築・改修工事を進めていくことと致しております。

そのため、開発建設部では、業務の内容により、建築設備設計並びにその工事監理業務を単独で外部委託することも視野に入れて、検討を進めているところであります。については設計者並びに工事監理者を選定する上で重要な情報源となる公共建築設計者情報システム『PUBDIS』へのご理解とご協力をお願いする次第であります。

貴協会におかれましては、会員間の交流を通して、先端技術の導入、技術力の研鑽・向上に取り組んでいるとお聞きしており、心強く感じております。また、沖縄の設備整備を支え、地域の発展に貢献されてこられたことに対しては、深く敬意を表す次第です。その経験・技術力の蓄積、研鑽に更に努められ、沖縄の振興開発のため、なお一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴協会のなお一層の御発展と、会員並びにご参集の皆様のみまますのご発展とご健勝を祈念して私の祝辞と致します。

